

核のゴミをどうするか？

300m の地底に降りてみました

日本原研 瑞浪超深地層研究所、見学記

CANレポーター 大村昌宏



2013/11/23
地下 300m
の坑道

小春日和。11月23日(2013年)CANの事務局メンバー4名で、岐阜県瑞浪市にある原子力機構の研究施設を見学しました。「核のゴミ」をどうするかは私たちの世代に課せられた子孫への責任です。瑞浪の地下施設は、地下処分場についての調査を進めている所です。国民の理解を得ようと施設の見学を受け入れてくれています。

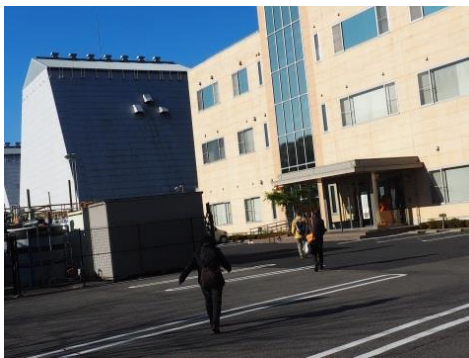
施設見学後、近くの交流会館をお借りして「放射能のゴミはいらない市民ネット」の方と学習・交流することができました。調査研究を名目にしてはいるが、ここ瑞浪に「最終処分場を作ろうとしている」のではないかと強い危機感を持っておられました。



名古屋から快速で 48 分

研究施設の目的は・・・

名古屋駅から中央本線で瑞浪駅へ。駅から5分で原研の施設へ。この施設の正式名称は「独立法人 日本原子力研究機構 瑞浪超深地層研究所」という。パンフレットには「地層を科学する」とあるが、ここは学術的に地層を科学している場所ではない。原研が研究しているのは「核のゴミ」高濃度放射性物質の最終処分が可能か研究することだ。

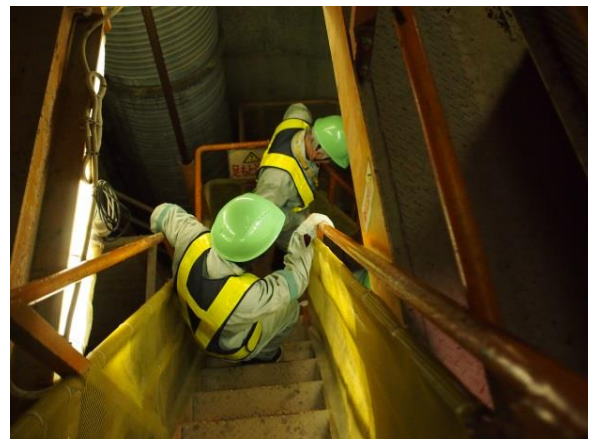


↑管理棟奥の三角屋根の施設に立坑がある

「万年後、朽ちても安全なように」と調査研究をしていると研究員より説明をうける。専門は岩石の結晶学ということだった。



施設の概略の説明を受けたあと、薄緑色の作業着、黄色いヘルメット、長靴の出で立ちでいざ地下 300m へ。



鉄製の階段を少し降りた後、作業用のエレベーターで地下 300m へ。



地下 300m の坑道は、湿度が少し高いようだった。パイプが目につく。吹き出す地下水が多いようだ。



現在、さらに深い地下 500m でも研究アクセス坑道が掘られ調査研究が進められている。



↑ 地下水の処理施設



気になったのは、地上施設の正面側にあった排水処理施設。当初こんなに大きな処理施設を作る予定ではなかったのか急ごしらえで増設したように見える。坑道に吹き出す地下水が想定以上に多かったようだ。しかもこの地下水、想定外のフッ素とホウ素が含まれており処理費用が随分かかっているとのことだった。

ご案内、説明いただいた研究所のみなさんには好感もてた。国民の理解を得ながら調査研究を続けたいという思いが伝わってきた。

なくずしで最終処理施設に？！

汚染は名古屋へも

見学後、近くの交流館をおかりして市民ネットの方との学習・交流会を行いました。

市民ネットの方が危惧しているのは、調査研究施設といいながら、結局この瑞浪の地下に最終処分施設が作られる可能性だった。

この東濃地域を対象に広い範囲で地層の調査が実施されており、地殻が安定しているとして巨大な最終処分施設が建設される可能性があるという。

地下 500m の坑道に高濃度の放射性物質が処分された場合。最初の数百年はガラスや金属ケースで密封されているが、これらがいずれ朽ち果て、地下の岩石と一体となる。この時、地下水への汚染は大丈夫なのだろうか。ネットの方は現在の調査坑から吹き出ている地下水

を「毒水」と呼んでいた。研究施設の現状をみ
てみると、明らかに想定外の地下水の流れが
この地底にはあるようだ。まさに掘ってみなけ
れば分からないことがある。

水は上から下へ流れる。放射性物質に汚染
された地下水が下流の濃尾平野に下る可能
性がある。

「深い地下に埋めてしまえばよい」とは軽々
しく言えない。地底のことは残念ながらよく分か
っていないのだ。

そして原子力施設の作られるところでは、お
金が動く。2002年から20年間に約280億円が
瑞浪市をはじめ東濃の周辺自治体に電源三
法交付金が支給されているという。原発立地
自治体と同じ現実がこの地域にはすでにある。
シャブ中毒と同じで交付金だよりの体質になっ
ていたら、「禁断症状」をおこし処分場の受
入れに同意することになるのだろうか。

日本学術会議は、原子力委員会の問いか
けに対し「日本には安定して最終処分する場
所はない」と回答し、暫定保管することを提案
している。

核のゴミをどうするか

国民的論議が必要だ

使用済み核燃料だけで1万7千トンがこの日
本列島にある。多くは既存の原子力発電所の
燃料プールに保管されている。燃料プールが
脆弱であることは福島第一原発事故が事実で
示した。福島第一原発事故の際、最大の懸念
は、多量の使用済み燃料が格納されていた4
号機の燃料プールの崩壊だった。もし崩壊し

ていたら首都圏3千万人に対し避難命令が出
される可能性があった。巨大地震や津波、テロ
攻撃のリスクはこの日本列島に存在し続けて
いる。

原子力市民会議が、「市民がつくる脱原子
力政策大綱」を発表した。「放射性廃棄物の処
理・処分」についても現状とその打開に向けて
の提案を行っている。

「安全神話」「経済利権」なし崩しで原子力
政策を推進できる時代は過去のものとなった。
この列島の存在する万トン単位の核のゴミをど
うするのか。私たちの世代の責任だ。

**「原発ゼロ社会への道 市民がつくる脱原
子力政策大綱」**は、自由にダウンロードでき
ます。

* 原子力市民委員会

<http://www.ccnejapan.com/>



↑ CAN地底見学隊メンバー